

イチゴ新品種「かおりん」「あまりん」ができました

～埼玉県オリジナルイチゴの育成～

1 はじめに

埼玉県では、都市圏に近い立地を生かした観光・直売のイチゴ経営が増加しています。そこでは、多彩なイチゴ品種が楽しめます。しかし、他県育成の品種で構成され、埼玉県独自の品種が無いことから、特徴あるイチゴのオリジナル品種の要望がありました。

そこで、観光・直売に対応可能な高糖度・優良外観（果形、果皮色、光沢）等の優れた形質を持つ品種の育成に向け、平成21年から交雑・選抜を重ねてきました。その中で目標に沿った2系統を「埼園い1号」及び「埼園い3号」（写真1、2）と命名し、平成28年5月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました（平成28年8月出願公表）。また、「埼園い1号」に「かおりん」、「埼園い3号」に「あまりん」の愛称をつけ、生産拡大・普及を図っています。

今回は、この「かおりん」、「あまりん」の特徴を紹介します。



写真1 かおりん（埼園い1号）果実



写真2 あまりん（埼園い3号）果実

2 「かおりん」の特徴

「かおりん」の果実は、短円錐～円錐形で濃赤色の果皮色をしています。果肉は淡い赤色をしています。

この品種は、非常に糖度が高く甘いのが特徴です。糖度（Brix.¹）を「とちおとめ」と比較すると、収穫期間中、常に上回っています（図1）。果皮・果肉共に硬く、果実を食べた時にしっかりした印象があります。また、イチゴを栽培する際に問題となる‘炭疽病’、‘萎黄病’の発生が少ない傾向にあり、病気に強い品種です。

¹ Brix. : 可溶性固形分濃度 糖度の指標に用いられる

一方で、「とちおとめ」に比べて開花始期が遅く（表）、収穫が年末～年明けに始まる晩生品種です。

表 各品種の開花始期の比較(月/日)

	H23	H24	H25	H26	平均
かおりん	11/17 ^a	12/2 ^a	11/28 ^a	12/5 ^a	11/27
あまりん	11/9 ^b	11/16 ^b	11/16 ^b	11/29 ^b	11/17
とちおとめ	10/24 ^c	10/30 ^c	11/13 ^b	11/5 ^c	11/4

供試した区（10株）の半数が開花した日を開花始期とした。
各年次 1区10株2反復で試験を実施。
定植は各年・各品種ともに9月下旬に行った。
各年次の異なるアルファベット間に有意差あり。
(Tukey-Kramer法 p<0.05)

3 「あまりん」の特徴

「あまりん」の果実は、形が整いやすく果形の乱れが少なく、円錐形で鮮やかな赤色をしています。果肉は淡い赤色です。

「とちおとめ」と比較すると、収穫量は同程度ですが（図2）、一果平均重量は重く大粒です。また、糖度（Brix.）は「かおりん」より低めですが、「とちおとめ」に比べ高い傾向を示す良食味品種です（図1）。

「とちおとめ」に比べると開花や収穫の開始は遅くなりますが（表）、12月から収穫できます。

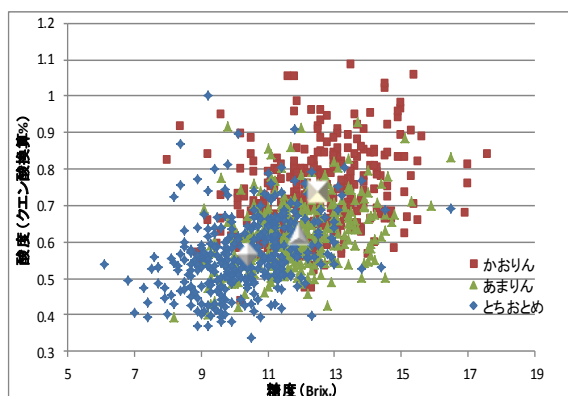


図1 糖酸比散布図

平成25年～27年の1月から3月に収穫した果実を用いて調査を行った。
測定は7日おきに実施し、1～10果/回・品種を供試した。

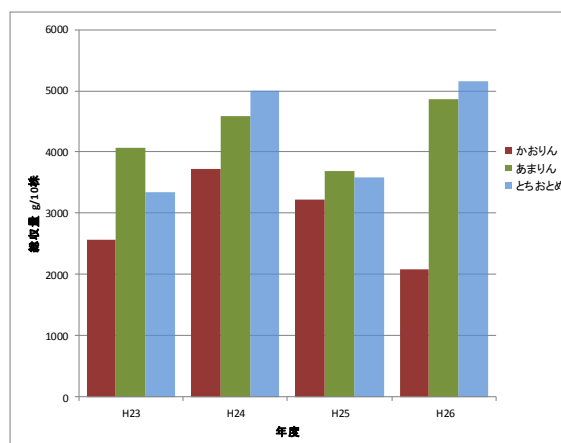


図2 総収量の比較（調査期間12～4月）

各年度 1区10株2反復で試験を実施。表は10株の総収量（2反復平均）を示す。
各品種間に有意差は検出されなかった（分散分析）。

4 今後の取組

今後は普及拡大を図るため、美味しい果実がどこでも安定的に生産できる栽培技術の開発を進めていきます。

【問い合わせ先】

農業技術研究センター品種開発・ブランド育成研究担当

電話：048-536-0311（代表） FAX：048-536-0315

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>